

美術館におけるパフォーマンスに関する研究

A study on the museums and performance

○荒井菜々美¹, 大川碧望², 佐藤慎也²

*Nanami Arai¹, Aono Okawa², Shinya Satoh²

In recent years, the performance has rapidly become the foreground. Performance in museums enliven the quiet hall through physical expression. And extend the viewer's viewing experience. Museums have expanded their role in line with the diversification of artistic expression. Therefore, we investigate exhibition methods and new perspectives on spaces for performance in museums.

1. 研究背景と目的

近年、美術館において、パフォーマンスという表現が急速に前景化している。2018年、国立国際美術館は、アローラ&カルサディーラのパフォーマンス〈lifespan〉をコレクションとして収蔵し^[1]、2012年にはテート・モダンがパフォーマンス、映像、インスタレーションの展示に特化した空間「ザ・タンクス」を増設する^[2]といったように、美術館におけるパフォーマンスに関する事例が増えている。美術館でのパフォーマンスは、身体表現によって静かな館内を活気づけ、鑑賞者に身体性のある鑑賞体験をもたらす。これまで美術館は、芸術の表現形態の多様化と相まってその役割の幅を広げてきた。ここに、パフォーマンスという美術館にとって新たな表現形態のあり方を考えることで、観客の鑑賞体験の拡張と美術館のさらなる存在意義の広がりを見ることができないのではないか。

本研究では、パフォーマンス作品の構成に展示空間の特性が考慮されていると仮定し、美術館でのパフォーマンスの展示方法の提案と展示空間に対する新たな視座の獲得を目的とする。その結果、美術館の建築計画や展示において一助となるものを目指す。

2. 既往研究と本研究の位置づけ

田島ら^[3]、阪田ら^[4]は、パフォーマンスとその展示空間の関係性に注目しているが、まちなかで行われたものを対象としている。その他、岸田^[5]のパフォーマンスに関する理論の体系化を行っているもの、大日向^[6]の美術館で行われたパフォーマンスに着目しているものがあるが、いずれもまとめに過ぎず、美術館で行われるパフォーマンスと展示空間の関係性に関する研究は見当たらない。したがって、本研究は、美術館で展示されるパフォーマンス作品とその空間特性の関係性に注目する点に新規性がある。

3. 美術におけるパフォーマンスの定義

美術におけるパフォーマンスは、未だ明確な定義は存在しないため、本研究では、パフォーマンス・アート、ダンス、舞踏など、身体を媒体として表現される作品をパフォーマンスと定義する。

4. 20世紀のパフォーマンス^[7]

パフォーマンスの変遷は、第1に未来派、第2にダダ、第3にバウハウス、第4に身体表現、これらからの展開に特徴づけられる。パフォーマンスは、1909年に提唱された詩人フィリッポ・トマゾ・マリネッティの「未来派宣言」がはじまりである。歴史的な美術に否定的な姿勢を含んだこの宣言を表現する手法として、過激で破壊的な演劇やまちなかでの行為そのものが用いられた。その後は、1916年、キャバレー・ヴォルテールを起点とし、未来派の影響を受けたダダの反道徳的な内容の上演や、1919年に開校されたバウハウスの社会秩序の中で上演された行為といったように、その歴史は続いた。1945年前後にはひとつの表現手法として確立し、1970年代には各芸術家が独自で確立した多様な表現が展開された。これらは、美術だけでなく、既存の社会の価値観までも否定することで、多くの観客を引き寄せ、時には巻き込み、上演の内容が変更した作品もあった。また、展示場所としては、まちなかやキャバレー、学校といったように、劇場のような特定の場所というより芸術家の関心により場所が選ばれていた。

5. 研究方法と対象

美術館でのパフォーマンスの展示は、これまでにいくつも行われている。本研究では、展覧会情報検索「art commons」^[8]に記録されている2000年以降の展覧会より、パフォーマンスが展示された展覧会を選定し、調査する(図1)。次に、詳細な情報が得られた群馬県立

1 : 日大理工・院 (前)・建築、2 : 日大理工・教員・建築

近代美術館で展示された大日向基子の〈白い人たち〉と国立国際美術館で展示されたアローラ&カルサディーラのパフォーマンス〈lifespan〉を対象とし、手法について考察を行う。

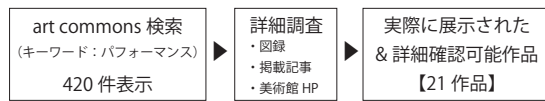


図1 研究対象作品の選定プロセス

6. 調査結果

6-1. art commons の調査結果

これまで展示されたパフォーマンスは、詳細を把握できたものが 21 作品であった (表 1)。展示場所は、展示室が最も多い。その他、ロビーや廊下など、展示室から飛び出し、意図的な鑑賞者ではない観客との出会いを求めている例や、閉館後に美術館全体を利用してレクチャーを交えた、参加者とパフォーマーの共同制作を目的とする例があった。主な展示形式としては、作者が自らパフォーマンスを行う場合、パフォーマーに委任して指示書や台本などの原型に基づいて再現する場合、作者と他のアーティストによる共同展示の場合があった。

6-2. 詳細事例の調査結果

〈白い人たち〉は、桐生大学・桐生大学短期大学学部生 14 名がパフォーマーとなっている。台本は存在するが、基本的には学生の即興性に内容が任された。展示場所は、エントランスやフロアで、14 名が創造的に動けるような場所であった。また、〈Lifespan〉も 3 人のパフォーマーに作品内容が委任され、展示がされた。この作品は、展示室の中を動き回るといよりは、1 つ 1 つの行為が重視される内容であった。

7. 結論

美術館でのパフォーマンスは、これまでいくつか展示が行われてきた。その内容は、新たな表現形態としてのあり方の他に、〈白い人たち〉のように、作品にパフォーマーとして他者を取り込む、共同制作を通じたコミュニケーションの可能性を確認できた。この人を巻き込む範囲の広さは、美術館の役割と通底し、今後の美術館にとって、パフォーマンスの要素を取り入れる必要性は高くなると考察する。

参考文献

- [1] 中井康之: 「パフォーマンス・アート」その表現と体験の深化, キュレーターズノート, artscape, 2018. 7. 15, <https://artscape.jp/report/curator/10147595_1634.html> 2022. 08. 19 アクセス
- [2] ART iT News, 2012. 7. 19, <https://www.art-it.asia/admin_ed_news/4ucsgmfs1xdodbzvmtn> 2022. 08. 19 アクセス
- [3] 田島春香, 星野裕司, 増田晃太: ストリートアートブレイクスにおける都市空間利用に関する研究, 日本都市計画学会都市計画論文集, No. 45-3, pp. 385-390. 2010. 10
- [4] 阪田弘一, 柏原士郎, 吉村英祐, 横田隆司: 繁華街におけるストリート・パフォーマンスの実態とその発生場所の空間特性 コミュニケーションを誘発する都市空間に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 541 号, pp. 123-139, 2001. 3
- [5] 岸田真: パフォーマンス研究の地平, 桜美林論考人文研究, 第 1 巻, pp. 117-128, 2010. 3
- [6] 大日向基子: パフォーマンスアートの実践 2017- 2019 までの取り組み, 桐生大学紀要, 第 31 巻, pp. 165- 172, 2020
- [7] ローズリー・ゴールドバーグ, 中原佑介訳: パフォーマンス 未来派から現在まで, リプロポート, 1982. 11
- [8] art commons, 展覧会情報検索 @ 国立新美術館 <<http://ac.nact.jp/>> 2022. 08. 20 アクセス

表 1 2000 年以降に展示されたパフォーマンス作品

	作品名	場所	展示	会期	アーティスト	形式	観客参加
1	Add-Venture アド・ベンチャー	広島市現代美術館	B1F ミュージウムスタジオ	2001/12/23~24	グラインダーマン	作家自身	○
2	「種子 II」	広島市現代美術館	B1F ミュージウムスタジオ	2002/5/19~6/2	ユニット00	作家自身	×
3	リボンの既視	高知県立美術館	1F ステージロビー外	2002/9/23	文殊の知恵熱	作家自身	×
4	Beyond the sunbeam through trees-木漏れ日の向こうに	群馬県立近代美術館	1F 展示室1	2012/4/14~6/10	平川典俊	共同展示	×
5	1924人間機械	世田谷美術館	1F 講堂	2012/7/14~9/2	やなぎみわ	演劇	×
6	ひとつの応答ーベボンギさんと数えきれない女たち	福岡アジア美術館	8F あじびホール	2012/9/1~10/21	イトー・ターリ	作者自身	×
7	それらの日々をへて、あの日がやってくる	東京都現代美術館	3F 企画展示室	2012/10/27~2013/2/3	佐々瞬	共同展示	×
8	オルガネラプロジェクト	金沢21世紀美術館	光庭	2013/4/27~9/1	オル太	作者自身	×
9	"Transition" part 1-3	板橋区立美術館	2F 展示室	2013/11/26~2014/1/5	丸山常生	作者自身	×
10	美術が野を走る	金沢21世紀美術館	展示室14 その周辺	2014/9/13~10/13	高橋悠治、笹久保伸、青木大輔、Irma OSNO	共同展示	×
11	抽象直接行動198の方法 (仮)	東京都現代美術館	B2F 企画展示室	2016/3/5~5/29	橋本聡	委任	×
12	へんなうごきサイファー	東京都現代美術館	B2F 企画展示室 アトリウム	2016/3/5~5/29	遠藤麻衣、増本奏斗、谷竜一	共同展示	×
13	ばくの紙の微笑み:光、動、陰 light, movement and shadow of my paper—smile	大分県立美術館	1F 展示室A	2016/6/11~7/18	トネ・フィンク	委任	×
14	白い人たち	群馬県立近代美術館	1F エントランス付近 2F フロア	2017/4/22~6/25	大日向基子	委任	×
15	Vol/frame	国立国際美術館	B2F 階展示室	2018/1/21~5/6	ロベルト・クシミロフスキ	作家自身	×
16	Yield Point	国立国際美術館	B2F 階展示室	2018/1/21~5/6	笹本晃	作家自身	×
17	ショート・パフォーミング・ストーリー	国立国際美術館	B2F 階展示室	2018/1/21~5/6	ヒューマン・チョン	委任	○
18	Lifespan	国立国際美術館	B2F 階展示室	2018/1/21~5/6	アローラ&カルサディーラ	委任	×
19	8時だよ!問題行動	十和田市現代美術館	展示室 廊下	2020/7/23~2021/8/29	問題行動トリオ	共同展示	○
20	Piece to Peace	そごう美術館	展示室	2021/9/10~10/10	ひびのこづえ	共同展示	×
21	ROOT:根	熊本市現代美術館	メインフロア ギャラリー I・II	2022/7/2~2022/9/19	ひびのこづえ	共同展示	×